

各務原市まちづくり活動助成金 令和2年度交付事業 取材レポート集



各務原市 市長公室 まちづくり推進課

〒504-8555 各務原市那加桜町 1-69 TEL:058-383-1997

E-mail:machidukuri@city.kakamigahara.gifu.jp

※掲載してある内容は、取材や団体からのヒアリングなどをもとに作成しました。

令和2年度交付事業

※公開報告会での発表団体は、1年目団体（NO.1・2）です。

スタート助成1年目（NO.1・2）				
No	事業名	分野	団体名	ページ
1	日本語教室事業	国際協力の活動	グローバルファミリー	2・3
2	各務原市に住む外国人児童と保護者へのゆるやかな教育支援事業	国際協力の活動	国境なきレクリエーション	4・5
まちづくり助成2年目（NO.3・4）				
3	防犯パトロール活動事業	地域安全	清住町 ふるさと創生会	6
4	鵜沼山崎町伝統文化の継承と地域住民の連携強化事業	文化振興 まちづくりの推進	山崎区 屋形保存会	7

No.1	団体名	グローバルファミリー		
	団体の活動目的・目標	外国人との交流を図り、共生の必要性と喜びを分かち合うことにより、互いの存在に関心を持ち、自治会活動を始めとする様々な地域活動を円滑に進めることができる。相互の理解を深めることは、互いの利益を導くとともに、地域の安全や安心をもたらすことになる。		
助成金種類 事業名	スタート助成<1年目> 日本語教室事業			
事業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・尾崎中央ふれあい会館を主として実施 ・日本語の勉強会 ・市内在住の外国人との交流を目的とする 			
事業費総額(予算)	232,000 円	助成金交付決定額	100,000 円	
主な経費内容	講師謝礼、チラシ作成費、教材、事務用品費、会場使用料、会議お茶代、懇親会軽食代			

●実施内容

6月28日(日)10:00～11:00 尾崎中央ふれあい会館でグローバルファミリーによる在日外国人を対象にした「日本語教室」が行われました。

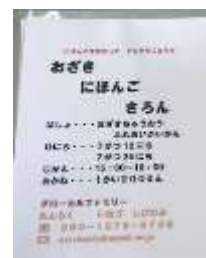
代表の板津重信さんは、自ら中国文化に身を置いた経験から、教科書通りの会話ではなく、参加者のレベルに合わせた生きた日本語を教えたいという思いで、この事業を実施されています。日本人の言葉は曖昧な表現が多く通訳を介しても訳し辛いことが挙げられます。例えば「検討させていただきます」は8割が断りのニュアンスを含んでいますが、外国人には断りとして受け止め難い言葉です。日本人としては「気遣い」の表現であっても外国人にとっては「気遣い」とは受け止められない場合もあります。また、中国では食事の際、「こんなにたくさんの食べ物をありがとう」という意味で食べ残す習慣がありますが、日本では食べることが良しとされます。そのような些細な日常生活の中での文化の違いも伝えていけたらとお話をされていました。

日本語教室は昨年度から活動を始め、5人程度の参加者が来場されるようになっていましたが、3月から6月前半まで新型コロナウイルス感染拡大の影響により会場が使用できず、今回は今年度初めての開催でした。その為、事前に地域の外国人の家を個別に回り、参加の呼びかけを行いました。残念ながら、日曜日の午前中という時間帯がキリスト教徒の礼拝と重なったこともあり、今回の参加者は0人でした。今後は日時を工夫して参加しやすい環境を整え、引き続き、顔の見える関係性や気軽に来ることのできる雰囲気を作っていきたいと話されていました。

次月は、7月12日(日)、26日(日)15:00～16:00に行われます。



←参加者に分かりやすいよう会場の至る箇所に助成金で作成したポスターや横断幕が張られていました。
→次回案内チラシです。



←参加者のレベルに合わせて生きた日本語を教える工夫を語っていただきました。

●実施内容

12月5日(土)14:00～15:30 尾崎中央ふれあい会館でグローバルファミリーによる日本語教室事業の打合せが行われました。今回は代表の板津重信さん、田村みきさんはじめ協力者として在日外国人の王琪文さん、本田艶さんが話し合いに参加をしました。

昨年度は団体独自で「日本語教室」を行ってきており、定期的に5名程度の参加があったものの、今年度に入ってから新型コロナウイルス感染症の影響で外国人の参加者が来られなくなってしまいました。今後の事業の方向性についてどのようにしていけば効果的なものになるのかを議題に話を進められました。

代表の板津重信さんから、協力者の2名に「外国人として日本に住む立場で意見を頂けないか。外国人の方で日本に住んでいても『日本語を話す必要性がない』と思っているのではと感じている。どうしたら『教室に行こうかな』と足を運んでくれる気になるのかアドバイスを頂きたい。」と話されました。

王琪文さんからは、「研修生は仕事があれば、仕事を優先する。あとは、交通の便の問題があると思う。私の妻も中国人だが日本語が話せないものの子どももいるし勉強したいと思っている。働いている立場ではない奥さんだと平日に来やすいのではないか。」という意見がありました。本田艶さんからは、「私も以前は尾崎に6年間住んでいたが、技能実習生というよりは、研修名目ではない形で企業に勤めて人が多い印象がある。尾崎に限らず来てても良いのであれば、ジモティーやTiktokを使って投稿をすると、多くの人の目には触れるのではないか。」とのことでした。

構成員の田村さんからは、「近くに住んでいるフィリピン人は、ゴミを窓から捨てたり日本のマナーを分かってもらえず大変苦労をしている。言葉も通じず、理解してもらうのに時間を要するため日本語教室には足を運んでもらうような状況にない」という現状や板津さんからも「日本語教室のチラシを持っていても、今までの地域の対応から『叱られる』と思って相手が委縮してしまったケースもあった」との意見が出て、足を運んでもらうためのアプローチの難しさと今後近隣とのトラブル軽減のために「日本語教室」に来てもらうことで少しでも地域との交わりを持つことができればとまとめられました。

また、今回の打合せでは「チラシを配布する場合、外国語のチラシがあれば目を引くのではないか」という意見もあり、現在のチラシを多言語化して設置をする、などの工夫を今後重ねていく予定です。



↑協力者の王琪文さんと本田艶さん。二人とも在日外国人の立場で、ご意見を頂きました。
←打合せの様子。

No.2	団体名	国境なきレクリエーション		
	団体の活動目的・目標	各務原市に住む外国人と日本人の相互理解→相互支援→相互成長を目的・目標とする。		
助成金種類 事業名	スタート助成<1年目> 各務原市に住む外国人児童と保護者へのゆるやかな教育支援事業			
事業概要	①外国人児童へ日本で生活する上で必要な日本語を教える。外国人保護者が困り事を気軽に相談できる場の提供。 ②外国人と日本人が遊び(レクリエーション)とお茶(ティータイム)を介して、やさしい日本語でコミュニケーションがとれる事を体感できる場の提供。			
事業費総額(予算)	83,910円	助成金交付決定額	47,000円	
主な経費内容	講師料、レクリエーション材料・文房具、コピー用紙、事務用品、チラシ印刷費、ボランティア保険料、会場使用料、ボードゲーム、日本の玩具、電気ポット、お茶・お菓子			

●実施内容

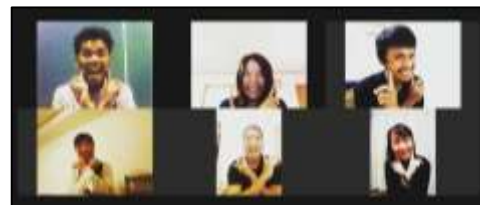
4月29日(水)20:00~21:00、「にほんご！オンライン」が開催されました。

主催者である「国境なきレクリエーション」は、「各務原市に住む外国人児童と保護者へのゆるやかな教育支援事業」として、日本人と外国人が集って一緒にレクリエーションやお茶会を楽しむイベントを年4回企画していましたが、新型コロナウイルスの影響で集うことを自粛。現在、各務原市国際協会で開催されていた日本語教室が開催できない状況であることも鑑み、収束までは日本語での会話とレクリエーションによる国際交流をオンラインで楽しむ内容に方向転換されました。

運営方法を試行錯誤しながら小規模の実施を重ね、今回は8回目の開催。代表の浅野幸子さんを含む日本人3人と、インドネシア人3人が、Zoomのオンライン会議機能を利用して、1時間の会話を楽しみました。

Zarda Arbyさんは「気」という文字の意味について質問。空気、気もち、気質・・・など複数の使い方がある文字ですが、何気なく使っている日本人も、改めて聞かれると説明がしにくく、日本語の複雑さを感じさせられました。また、インドネシア語には「～してくれる」「～してあげる」「～してくる」などという表現が無く、このような表現が含まれていると、翻訳アプリでも正しく翻訳されない為、最初は意味が分からず困惑したそうです。単に使っている言葉をひらがなにするだけでは「やさしい日本語」にならないことを、日本人一同は実感しました。

参加者達は、「日本語は難しい」としながらも、「遠慮なく早口で話して大丈夫、難しい言葉も覚えたいからどんどん使って」と、とても前向きでした。団体代表の浅野幸子さんは、「現在、活動を始めたばかりで、参加者に偏りがあるため、口コミを含めて広報活動をごんぱりたい」とおっしゃっていました。



●実施内容

7月5日(日)10:00~15:00、「ラルラリー楽しい国境なき仲間作り」が開催されました。

新型コロナウイルスの影響を鑑み、4月当初からオンラインでの活動を続けてきた団体でしたが、学校が再開され施設利用も可能な状況となったため、施設感染防止対策をした上で集う場を設けられ、市内外から27人(一般参加者20人、スタッフ7人)が参加しました。

このイベントは、団体スタッフだけでなく、バリーさん・ビーさんを中心とした外国籍メンバーがメインとなり実施されました。バリーさんとビーさんは共にインドネシア出身で、日本滞在は3年目。母国インドネシアでイベントなどを実施された経験を活かして、計画から、チラシ作りや当日のPC・音響準備、記録撮影まで、近隣都市に住む仲間もカメラマンとして巻き込みながら主体的に担われ、団体構成員がそれをサポートする形をとられました。冒頭の挨拶では、「自分の国を離れた場所に来て、寂しい時、困ったことや嬉しいことを話したいとき、それを話せる友達が欲しいと思った。ここで、日本語で話せる友達を作りましょう」と挨拶されました。

当日は前半に「仲間外れゲーム」「マジカルバナナ」など、日本語を使ったゲーム、後半には音楽発表やインドネシアの「ポチョポチョダンス」を楽しみました。また途中のランチタイムでは、各自が持ち寄ったお昼ご飯を食べながら参加者同士が交流を深める様子が見られました。パキスタン国籍の小学生、マイマルちゃんは、マジカルバナナでは恥

ずかしがっていたものの、音楽発表の「パブリカ」に飛び入り参加し可愛い歌声を披露。その後は他の参加者とも楽しそうに会話をしていました。また、参加した小学生同士が開始数分でゲームの話に没頭するなど、子ども達に国籍は関係ないことを感じさせる一幕もありました。

団体代表の浅野さんは、「今回は、関わる全ての人々が趣旨を理解してその想いに乗ってくれたおかげで実現ができた。人に頼るのが苦手だったが、皆で実現できたからこそ、こういう場になった。」と、関係した方々に感謝の意を口にされました。

↓ ポチヨポチヨダンスの様子

↓ ゲームの様子



↑ 発表の様子。パリーさん・ビーさんが近日帰国する予定であることを聞き、音楽発表時に参加者達が「夢をかなえてドラえもん」の歌詞「ドラえもん」部分を「ハムパリー」「アルビー」に変えて発表する温かいサプライズもありました。

パキスタン 7 人・トルコ 3 人・インドネシア 7 人・日本 10 人

●実施内容

11月28日(日)10:00~11:45、「公園で遊ぼう♪」が開催され、小学1年生から大人まで、計14人(一般来場者8人・ボランティアスタッフ6人)が参加し国際交流を楽しみました。

今回は、コロナ禍でのイベントということで、団体は「ソーシャルディスタンスを守った遊び」を3種類提案。2チーム対抗で①新聞紙で輪ルー と ②新聞紙玉入れ、全員で ③ジェスチャー伝言ゲーム を実施しました。

ボランティアスタッフは会場に1時間前に集合。大まかな遊びの内容は決まっていたが、当日の会話の中から生まれたアイデアや工夫をどんどん取り入れながら内容をブラッシュアップ。その場で各自ができることを分担して準備し、当日の動きを確認しました。開始予定時刻になっても参加者がなかなか揃わない中、参加者から「遅れます」と連絡があったり、ボランティアの皆さんが笑顔で「海外タイムだね」と一息ついたりする様子は、相互理解によるものと感じられ、印象的でした。

ジェスチャー伝言ゲームでお題になった「洗濯」では、途中から洗濯の表現が変わったことから、自然と「あなたの国ではどうやって洗濯物を干す？」などの会話のきっかけになりました。開始時には少し恥ずかしそうにしていた参加者も、イベント終盤には打ち解けた様子で記念写真を撮ったりお昼ご飯の話をしたりと、和やかに交流を楽しまれており、交流の回数を重ねることでプライベートな話題を話せる関係を築ける可能性を感じました。

代表の浅野さんは、「前日ギリギリになってのキャンセルも多数あり、チーム分けに苦慮した場面もありましたが、(ボランティアの)みなさんのおかげで乗り切ることができ、協力者って本当に大切だと思いました。参加メンバーにも助けられました。」と話されました。



↑ 輪ルー



↑ 新聞紙玉入れ

↑ ジェスチャー伝言ゲーム

No.3	団体名	清住町ふるさと創生会		
	団体の活動目的・目標	本会は、清住町及び近隣地域の不安全箇所の整備を図り、安全で安心な生活環境を創り出すことを目的としたボランティア団体です。		
助成金種類 事業名	まちづくり助成<2年目> 防犯パトロール活動事業			
事業概要	閑静で犯罪のない町を確保し、安心して暮らせる生活環境を創り出すため防犯パトロール活動を行う。			
事業費総額(予算)	41,221円	助成金交付決定額	12,000円	
主な経費内容	乾電池、ファイル、インクカートリッジ、オフィスペーパー、保険料、のぼり一式、反射文字マグネットシート			

●実施内容

6月7日(日)10:00~11:00、清住町ふるさと創生会メンバー5人により、地域の防犯パトロール活動が行われました。団体メンバーは9:45に清住町公民館に集合し、全員で今日の活動内容を共有した後、清住町・飛鳥町・持田町・東山を、徒歩および自家用車でパトロールしました。

徒歩パトロールでは、今年度助成金で購入したのぼり旗を持ち、清住町公民館周辺を歩きました。徒歩パトロール中には、空き家・空き地の状況や、道路に危険箇所や破損がないか、放置されたごみ等がないか等も確認。問題がありそうな場所や苦情があった場所については、メンバーが互いに知っている情報を出し合い、共有していました。

徒歩でのパトロールを終えた後は、「防犯パトロール」「警戒パトロール中」というマグネットシートを貼った自家用車に乗り込み、広域をパトロール。新型コロナウイルス感染症の対策とし、全員がマスクを装着し、窓を全開にすることで三つの密を避けられていました。

広域パトロールでは、不審な車が止まっていないか、住宅に異変がないか確認しながら周回し、外を歩く人には「防犯パトロール中です。」「おかしなことはないですか。」「詐欺の電話に気をつけて」など、積極的に声を掛けられていました。住民からは、「お疲れさまです。」「ありがとうございます。」と労いの言葉が掛けられていました。



会長の江頭さんによると、最年長 80 代の吉原さんは、団体一の出席率とのこと。吉原さんは、「この時期、徒歩で回るのは体力的に厳しいが、車でのパトロールは参加できる。」と、無理なく活動を継続できている理由を話され、今後の活動への意欲ものぞかせていました。

(清住町ふるさと創生会の皆さんは、防犯パトロール後、午後からは通学路の花壇整備に取り組みました。)

No.4	団体名	山崎区屋形保存会		
	団体の活動目的・目標	山崎地区に古くから継承されている、郷土文化である「祭り囃子」の保存と、伝承活動を通して次世代に引き継いで行くことで、地域住民相互の親睦及び連帯感の向上を図り、地域社会に貢献することを目的とする。		
助成金種類 事業名	まちづくり助成<2年目> 鵜沼山崎町伝統文化の継承と地域住民の連携強化事業			
事業概要	古くから伝承されている「祭り囃子」の担い手を増やし、その活動を通じて鵜沼山崎町住民の連携を強化し絆を深める。			
事業費総額(予算)	412,000 円	助成金交付決定額	124,000 円	
主な経費内容	講師謝礼、チラシ作成費、大太鼓の台作成、台車の舵棒改修費、小太鼓・笛購入、お茶菓子代			

●実施内容

山崎区屋形保存会は、今年度も昨年度に引き続き、太鼓や笛を整備し、体験会や練習、発表会の開催を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、発表の場となる地域行事、体験会が中止となりました。普段の練習においても、指導者が高齢で重症化が懸念されることから今も集うことをやめられています、「その中でもできることを」と、昨年度事業で制作したDVDを活用し、自宅での練習を続けられています。

自宅練習に当たっては、小太鼓の練習台を各自が持ち出して使えるようにし、より練習しやすくなるようにと、楽譜がなく「字ごと」で引き継がれてきた6楽曲の楽譜も整備されました。また、これらの内容を「【山崎区屋形保存会】通信」にまとめ、練習に取り組む子ども達に配布されました。

会長の林成美さんは、「コロナウイルス対策で本来の活動ができなかったからこそ、歴史を調べ周知する機会、楽譜として見える化する機会となりました。」と前向きにお話されました。

団体は、この環境下でできる地域住民の連携強化を、引き続き行っていく意向です。



↑DVD を見ながら兄弟・家族で家での練習に励んでいます。
→ 保護者も一緒に積極的に練習をしています。



↑コロナ禍のタイミングを活かして「字ごと」で引き継がれてきた6楽曲の楽譜も整備されました。